

ボランティアセミナーの報告

- 1 開催日時：平成28年9月6日（土）13日（土）20日（土）27日（土）
13時から15時
- 2 参加者：延べ30名
センターパートナーや地域で活動するボランティアの方が参加していました。
- 3 目的：新規のセンターパートナーの勧誘及び現パートナーの研修、さらには県内で活動するボランティアの研修も視野に入れたものでした。
「自分」「仲間」「環境」の視点から、ボランティアの在り方を考えました。
- 4 内容（資料の活用とワークショップの様子を掲載いたします）

(1)「環境ボランティアとは何か」9月6日（土）

- ・「参加者の自己紹介」を行いました。

4コマで自己紹介を行いました。名前・所属している団体等、趣味、これまでの経歴など、そして現在がんばっていることなどをもとに行いました。アイスブレイクとしては、みなさん話すことがたくさんおありで時間がかかりましたが、いろいろな活動をされていて、今後の参考となるものでした。

- ・ボランティアとは何か。

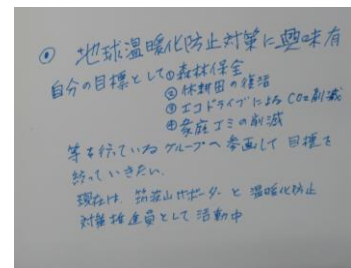
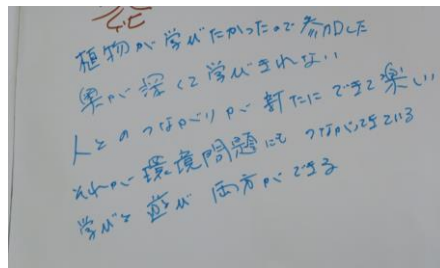
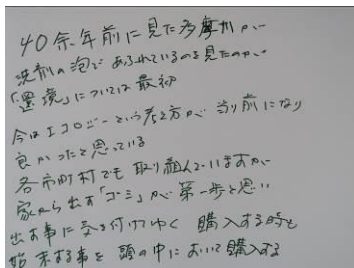
みなさん、自主的な活動であることや社会のために行っていること無償であることをご理解されていました。

- ① 自発性
- ② 貢献性
- ③ 無償性

- ・「ボランティア活動から得られるもの。」を考えました。

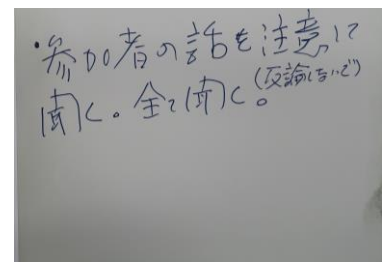
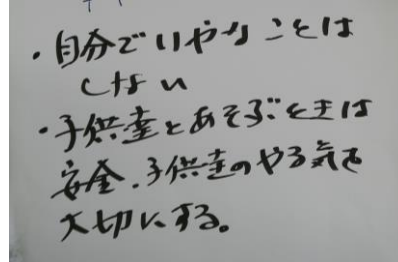
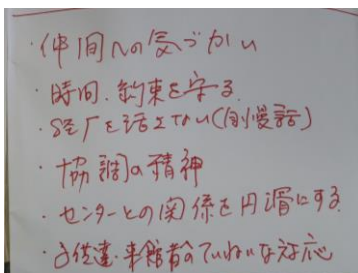
共感・楽しさ・充実感・・・。
「仲間づくり」「自分をみつめる」

- ・「ボランティア活動をしようと思ったきっかけ。」をお聞きしました。



40年前の多摩川での水質汚濁の体験から、何とかしたいと思った。植物が好きで、学びたかった。地球温暖化防止に興味があった。

- ・「ボランティアとして気をつけていること。」をお聞きしました。



仲間への気づかい。安全、子どもたちのやる気を大切にする。参加者の話を注意して聞く。

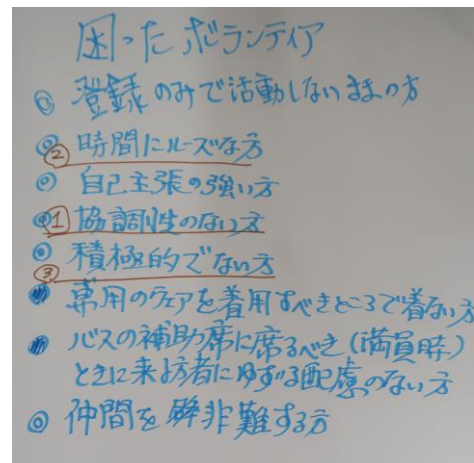
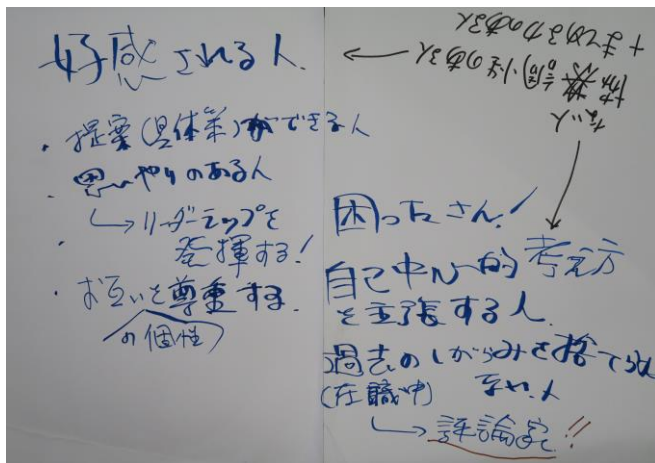
(2)「自分を活かし、仲間とかかわる」9月13日(土)

- ・「どんな状況で活動したいか。」お聞きしました。
ある調査では、右図のような結果が得られました。
住んでいるところで活動したい。
月1回程度の活動をしたい。

- ・「居住地域」63.6%
- ・活動の頻度
月に1回程度 40.6%
週に1~2回 15.8%
平日の昼間と土日などの休日に2分
- ・どんな立場で参加したいか
ボランティアリーダーとして2%
中心メンバーとして8.0%
専門分野のアドバイザーとして7.4%
補助メンバーとして63.7%

(引用：やってみよう！環境ボランティア)

- ・「ボランティア活動をしていて、好感される人と困った人？」をお聞きしました。



参加者からは、次のような回答がありました。

好感される人：思いやりのある人。提案ができる人。お互いを尊重する人。
困った人：時間にルーズな人。自己主張の強い人。協調性のない人。

- ・「ボランティアに求められるものは何か。」次のような調査結果があるそうです。
参加者のみなさんが、考えられたとおりでした。

ボランティアに求められるのは何か

質問1 どのようなボランティアさんに好感が持てますか？

第1位	積極性、主体性がある	自主背的、積極的に行動、向上心がある、主体的に動ける
第2位	協調性がある	協力的、団体の立場や事情を理解している、強調・協力できる
第3位	コミュニケーション能力が高い	積極的にコミュニケーションをとれる、明るい
その他	素直、真面目、継続性がある、ユーモア、明るい	

ボランティアに求められるのは何か

質問2 どのようなボランティアさんが困りますか

第1位	協調性を欠く、自分勝手	自主背的、積極的に行動、向上心がある、主体的に動ける
第2位	時間、約束にルーズ	協力的、団体の立場や事情を理解している、強調・協力できる
第3位	やる気がない、消極的	積極的にコミュニケーションをとれる、明るい
その他	理屈っぽく動かない、連絡がつかない	

(引用：やってみよう！環境ボランティア)

(3)「環境とのかかわりを楽しく学び、共に育み合うために！」9月20日(土)

・「ボランティアの魅力は何か。」お聞きしました。

参加者からは次のような回答がありました。

自然と触れ合える。
 対等な付き合いができる。
 地元に着した活動ができる。

自然と触れ合える 自然とのつながりが体感できる/感覚が研ぎ澄まされる/自然と対話できる/フィールドに直接触れられる	世代を超えて 100年後を考えて行動する/次世代の将来・未来につながる/持続可能な社会へ	暮らしを見つめ直せる “人間”を考え直す/人と自然との係わりや暮らし方を考える/人類共通の課題に対するアクションを起こす
フラットな付き合い 自然の中ではみんな平等/年齢・性別・職業・出身地に関係なくいる人と付き合える	誰でも参加できる 一人でも参加でき、自分に合ったテーマで活動できる/自然は誰でも受け入れてくれる！	癒し(お徳感がある) リラックスできる/ストレス解消/心が洗われる/清涼感/運動不足解消/ビールが美味しい！
結果は自分に返ってくる ギブ・アンド・テイク/自然を守り、その恩恵に自分も享受することができる/誰もが地球の上で暮らしている	世界規模・地球に関わる 地球市民としてのグローバルな問題に取り組める/地球との一体感が感じられる/ちっぽけな自分に気づく/視野が広がる	地元密着・コミュニティ再生 地域との一体感が感じられる/地域活性化につながる/いろんな仲間ができる/笑顔生まれる

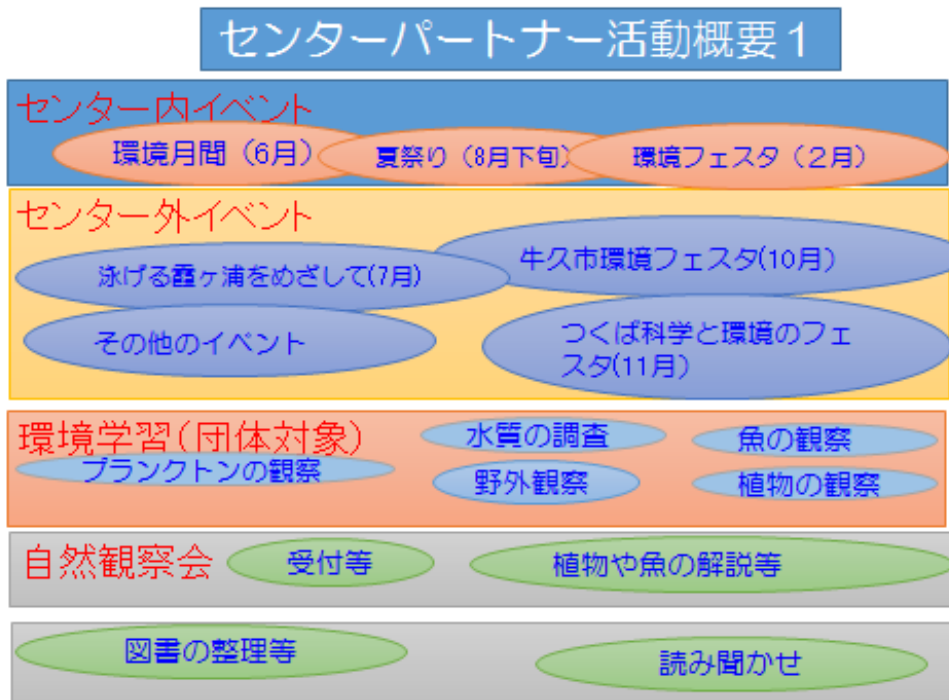
(引用：やってみよう！環境ボランティア)

・「ボランティア 5つのルール」を紹介しました。

- ①自主的に活動しよう
- ②相手を尊重しよう
- ③団体にコンタクトするときには気をつける
- ④事務所を訪問するときのマナー
- ⑤約束したことは責任を持つ

(引用：やってみよう！環境ボランティア)

・「センターパートナー活動」を紹介しました。



年間の活動内容を説明すると共に、センター内を案内しながら、パートナー活動についての説明しました。

(4)「環境問題とボランティアの関わり」9月27日(土)

・環境問題とボランティアの関わり

事例を取り上げて、いろいろな関わり方があることを説明しました。

「生活協同組合」の取組
生活の中から環境問題の
解決を考えています。

ライフスタイル指向型：生活協同組合
組合員のボランティア場 組織としての生協
グリーンコンシューマーと生協
ボランティア活動の場としての生協

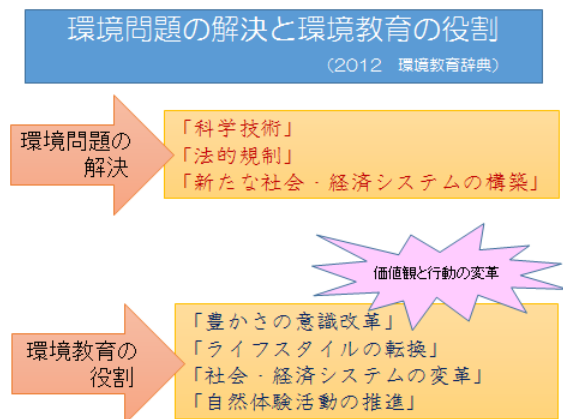
「自然観察の森」の取組
自然環境保全から環境問題の
解決を考えています。

自然環境保全指向型：自然観察の森
自然に親しむ、理解を深める教育活動
環境管理作業 環境調査

「環境学習施設」の取組
環境教育を通して、環境問題
の解決を考えています。

啓蒙・啓発指向型：環境学習施設
環境教育・環境学習指向型：環境学習施設
学校や社会教育現場での自然体験などの環境学習
環境啓発イベント

・環境問題の解決と環境教育の役割
環境問題の解決のためにも環境教育は
必要であることを説明しました。
教育によって、環境問題の起こらないよ
うな社会を構築するという目的もあるこ
とを説明しました。



5 まとめ

- ◎ 現パートナーからは、このような研修会をもっと早く行って欲しかった。パートナー同士の交流ができたといった感想がありました。
- ◎ 新たにパートナーに参加した方からは、パートナーの先輩方と交流できてよかったといった感想がありました。
- ◎ 他団体で活動している参加者からは、ボランティア活動について理解が深まりました。色々な方と交流できてよかったという感想がありました。

☆ お忙しい中、数回にわたるボランティアセミナーに参加された皆様に感謝いたします。

* 参加者の皆様には、センターパートナーとして、その他地域のボランティアとしてのご活躍を期待しています。